

入居者 インタビュー

『ダンスは 私の生きがい!』

伊東 百合子様(90歳)



伊東さんは59歳で入居を決断し、入居後に始められたダンスを90歳の今も週3回小田原の社交ダンス教室へ通われ、楽しまれています。ダンスに懸ける情熱とそのエネルギーの秘訣を聞いてみました。

〈幸せの延長線上にあった

早期入居〉

『私は20歳の時に結婚したの。主人は仕事が忙しい人だったけど休みの日はいつも一緒に過ごしてくれた。中年から二人でゴルフにはまりフルショットができるようにお庭に小さなゴルフ場を作り、スイングの練習を教えてくれたのよ。私達には子供がいなかった事もあって早く入居しようと話があったの。将来の不安もなくなるし、食事を作らなくてもいいしね。ここでゴ

ルフを思う存分二人で楽しもうと思つて入居したのは、主人が66歳で私が59歳の時だったわ。

入居後、ゴルフコンペで主人が1位、私が2位になったの。

もつとゴルフに打ち込みたいと思つていたけれど、スイス3大アルプス観光の海外旅行から帰つてきてすぐに主人が大病してしまつたの。診療所の先生に協力してもらいながら懸命に治療したけど、68歳で亡くなつてしまつたのよ。』

〈失意からの再出発〉

『どんな時でも頼りにしていただくから、主人がいなくなつて本当に辛くて悲しくて泣かない日がないくらいだったの。一周忌が近づけば、また涙が出てしまふしね。でも、ここには同じ経験をされている先輩方がいて、

その方達が笑つて過ごされている姿を見て、とても元気をもらったの。話を聞いてもらつたり、旅行に誘つてくれたり、とても救われたわ。自宅に一人でいたら耐えられなかつたと思うの。



帝国ホテルでのデモンストレーション

診療所の先生から趣味を持つた方が良くと言われたのがきっかけで、社交ダンスを始めるようになったの。昔からやりたいと思つていた事もあつて、どんなのめり込んでいったわ。今思えばダンスがあつたから色々乗り越えられたのかもしれないわ。』

〈今はダンスの虜〉

『昔から音楽が大好きで自分が選んだ曲で踊れるし毎回デモに参加する時はすべて新しい振付になるから、新鮮な気持ちで挑めるのよ。デモの前は緊張感がピークに達し地獄なの。踊つている時も緊張と不安もあるけど、うまく踊れた時の高揚感がたまらないの。その感覚を味わう為に練習に打ち込むのよ。一番好きなシヨパンの幻想即興曲で30周年のゆうゆう祭でダンスを披露したのよ。楽しかつたわ。これからももつとようまく踊れるようになりたいの。』



30周年のゆうゆう祭にて

◇ ◇ ◇
笑顔で話して下さつた伊東様はキラキラ輝いていました。これからも益々輝いて下さいね。